

Nursing Star

for Speciality

日精看ニュース
No.699



上田達郎(島根県) 初めての看護研究発表だったので緊張しました。また発表できるよう、がんばります。



田谷友寿帆(福井県) 初参加です！ 共感できる事例に出会い、有意義な時間を過ごせました。



宮脇悠里(島根県) 看護研究発表を聞いて、自分にも実践できると思うことがたくさんありました。



大村外貴子(兵庫県) 教育セミナー講師の松村先生にサインをもらおうと、先生の愛読書をもってきました！



原 匡史(島根県) 看護研究発表や緊急企画で、行動制限最小化の実践について、たくさん学べました。



手島弘恵(京都府) 書籍コーナーでは本を買いすぎました…。仕事の合間のリフレッシュができました。



岡本幹徳(岡山県) 岡山県支部の運営委員として会場の司会を担当。滞りのない進行を心がけました。



朝比奈 映(鳥取県) 県外の方たちと交流し、さまざまな視点や刺激を得たいと思って参加しました。



岩崎美沙(東京都) 出会えた人がとても温かく、その土地の美味しいものもたくさん食べました！

● ホームページにも参加者の写真を掲載しています！ <http://jpna-gakujutsu.jp/senmon/>

学ぼう、
交流しよう！

学術集会に行こう！

学術集会の歩き方 in岡山

学術集会に参加したことはありますか？基調講演や看護研究発表はもちろん、芸術、映画などさまざまな企画が盛りだくさん。全国の仲間との交流も深まります。自分に合った学び方、楽しみ方ができる「格式ばらない」学術集会。その魅力の一部を、今年6月に行われた第42回日本精神科看護学術集会（岡山県）に沿ってお届けします。

学術集会主題・基調講演



プロローグ

現在、日本精神科看護協会（以下、「日精看」）は、2つの学術集会を開催しています。毎年6月に開催している日本精神科看護学術集会（以下、学術集会）は、今年で第42回を迎えました。もう1つは、昨年より年1回開催に統合した日本精神科看護専門学術集会（専門学術集会）で、今年で24回目を迎えます（4面参照）。学術集会に合わせて定時総会や式典を開催しています。同じ施設から複数名で参加する方も多く、今年は約1,500名が参加しました。

学術集会では、毎年、日精看や精神科看護にとつての課題・展望を「学術集会主題」と位置づけて、それをテーマにした基調講演、シンポジウムを企画しています。学術集会主題は、日精看の教育認定委員会と理事会の議論を経て決定しています。今年の学術集会主題は「質の高い看護実践を保障する～個別性と効率性の矛盾を克服して」。学術集会の幕開けとして、吉野百合理事が基調講演を行いました（写真左）。

ナビゲーター | 吉川隆博 日精看 副会長／教育認定委員長



一般演題A（実践報告・業務改善報告）



高齢者ケアの実践報告に参加しました！

老健に勤務する看護師の報告を聞き、医療が必要な方へのケアに関する大変さを具体的に知りました。地域包括ケアの時代、施設スタッフとともに入院中のケアを考える大切さを痛感しました。（上田善徳さん・福岡県／写真左。右は発表者の如澤学さん）

現場ならではの手ごたえ

発表を聞いていて、鳥肌が立ちました。「すごい！この患者さんの人生が看護によって救われたな」と思いました。20歳代の統合失調症のAさん。入院後も幻覚や妄想に左右され理解不能な言動が続き、保護室への隔離も複数回あり、入院期間は340日を超えています…。ここまで聞いただけで絶望的な気がしましたが、ここからの展開がすごい！Aさんの非言語的な言動に注目し「Aさんなりの表現」の裏にある思いを1つ1つていねいにAさんとともに振り返り、本当のニーズに行き着いたのです。そのことによって受け入れに消極的だった父親を巻き込むことができ、115日後に退院できました。個々のニーズを引き出し、個々に合った看護を生み出す、この大変さと大切さを実感できました。

「実践報告」「業務改善報告」は、研究発表のプロセスをふんでいなくても、現場の実践をストレートに発表できるので、現場ならではの手ごたえが感じられます。だから、実践報告は面白い！

ナビゲーター | 金子亜矢子 日精看 教育認定委員



Start!

1日目

A.M.
10:00

P.M.
3:00

2日目

A.M.
9:00

A.M.
10:00

P.M.
2:00

行政報告

毎年、厚生労働省の担当者を招き、精神保健医療福祉の最新の動向について解説していただいています。



託児室があるから参加できました！

「子どもが小さいので悩みましたが、思いきって参加しました。保育してくださる方はやさしく、プレゼントも用意してくれて、息子は楽しんでます。私も新しい知識を吸収してきました！」（國府千穂里さん・愛知県）

初 日の受付は大にぎわい



予定より多い参加者に、準備したプログラム集が足りなくなるほど。日精看の役員と岡山県支部の運営委員の方たちが参加者一人ひとりを笑顔で迎えます。

教育セミナー①



ナイチンゲールに学ぶ
看護イノベーションと経営
講師／松村啓史
（テルモ株式会社 取締役顧問）

現場を元気にする看護管理

松村先生には10数年前のある研修会で「現場での経営は、人の人生をよりよいものにすることに貢献し、患者さんや職員に感動・元気・やすらぎを与えること」と教えられました。そこで、学術集会主題の「個別性と効率性の矛盾の克服」についてもヒントをいただきたく、講演をお願いしました。

講演で松村先生は、看護者から感謝の気持ちを示されることによって患者さんは「人のため・社会のため」に生きる決意をされる。だから病院は患者さんが生きることに向かって人生を再構築する場所ではないと語られました。また、そのためには、看護者が自分の仕事や病院、自分自身を好きでいられるようにすること。管理者は、スタッフが主人公となって患者さんや職員が幸せになることをいばんと考えていくことが大切であることを学びました。患者さんや職員を最優先にしたマネジメントを行えば個性が生まれ、個性を大切にすることこそ効率性をつかめるのだと確信しました。

ナビゲーター | 大塚恒子 日精看 副会長



教育セミナー②

津久井やまゆり園事件と
その後の精神科医療

講師／中島 豊爾
（地方独立行政法人岡山県
精神科医療センター 理事長）



残される問い

なぜ、このような事件が起こったのか……。この教育セミナーに参加したのは、その問いへの答えを求めていたからかもしれません。しかし、いい意味でその期待は裏切られました。中島先生は「自分のなかに、被告と似た考えがないわけではない」という見方を語りながら、1930年代のドイツで精神科病院に収容されていた患者を、医師と看護師が率先して大量に安楽死させていた「T4作戦」の事実を示されました。その延長上に、やまゆり園事件の被告の行為があります。

話を聞きながら、私のなかに浮かんだのは「共生」という言葉——この事件の底流にある「優生思想」とは対極にある思想です。日本社会はいま、障がい者との共生を制度としても認めています。もし被告の有罪が確定したら、おそらく彼との共生はありえませんが、なぜなら死刑制度があるからです。「私たちは、果たしてすべての人と共生することが可能なのだろうか」。私のなかにはまた、そんな問いが残されました。

ナビゲーター | 小宮敬子 日精看 教育認定委員



○ さまざまな論文投稿ができます

日本精神科看護学術集会（全国大会）では、看護研究発表（推薦演題＝支部の推薦を受けた演題）と、一般演題A（実践報告・業務改善報告）があります。推薦演題の投稿は、所属支部の事務局にお問い合わせください。日本精神科看護専門学術集会（専門学会）では、一般演題A（看護研究発表・実践報告・業務改善報告）の投稿を受け付けています。演題の種類などについては右記をご覧ください。全国大会で発表された推薦演題は、「日本精神科看護学術集会誌No.1」に掲載されます。全国大会と専門学会で発表された一般演題Aのうち、ご希望の方は、「日本精神科看護学術集会誌No.2」に論文形式にまとめ直して投稿することができます。

詳細はホームページをご覧ください。不明な点は事務局にお問い合わせください。（担当：早川）

	演題の種類	演題登録の方法
日本精神科看護学術集会	①看護研究発表（推薦演題）	3,400字程度（図、表、引用含めA4・2枚）。所属支部に投稿
	②一般演題A（実践報告・業務改善報告）	1200字程度（A4・1枚）の抄録
	③一般演題B（ワークショップ・交流セミナー）	必要事項と企画内容の概要を明記
日本精神科看護専門学術集会	④一般演題A（看護研究発表・実践報告・業務改善報告）	1200字程度（A4・1枚）の抄録
	⑤一般演題B（ワークショップ・交流セミナー）	必要事項と企画内容の概要を明記

日本精神科
看護学術集会誌
No.1に掲載

②④の希望者のみ
論文投稿
サマリー（A4・1枚）と
本文（A4・4枚）

日本精神科
看護学術集会誌
No.2に掲載

学 会カフェ



学会カフェでは、東洋羽毛が無料でコーヒーをサービス。盛りだくさんの企画の合間にちょっと一休みできる場所です。初めて出会う参加者とも話が弾みます。

シ ョッピング



学会カフェの横では、岡山県内の4つの作業所が、商品や作品を販売。おいしそうなパンやケーキ、ガラス細工、アクセサリが、ずらりと並びました。当事者の方の接客はとても温かくスムーズで、気持ちよくショッピングが楽しめます。

緊急企画



現場の声を受けとめる

2014年度の厚生労働省の調査で、身体拘束や隔離を受けた入院患者が過去最多を更新し、隔離は1998年の調査開始以来、初めて1万人を突破しました。こうした状況をふまえ、緊急企画「隔離・拘束最小化をめざす～政策提言に向けた意見交換」が行われました。多くの参加者が来場され、問題への関心の高さと看護者の危機意識の高まりを感じました。隔離・拘束の現状についての情報が提供された後、最小化を実現するための論点について、会場で行われたWebアンケートをふまえながら意見交換が行われました。「なんとかしなければ」という思いと裏腹に、「何をどのように努力し、改善すればよいのか」が見えてこない現場の歯がゆさが感じられました。個々の病院や看護者の努力だけではなく、政策的な誘導が必要な段階にきていると感じました。そして、この問題に真摯に向きあい続けることの重要性とともに、現場の声を受けとめ政策に反映していく日精看の役割を確認する機会となりました。

ナビゲーター 眞鍋信一 日精看 教育認定委員



シンポジウム



響きあう論議

シンポジウムという言葉は「饗宴(Symposion／ギリシャ語)」が語源となっているといわれ、「ともに飲む」という意味です。すなわち、親しい雰囲気なかで行われる論議というわけです。

学術集会の最後を飾るシンポジウムでは、学術集会主題にもとづいたテーマで、4人のシンポジストが意見を述べました。

私たちは日常的に「個性性を重視した看護を提供しなければならない」と考えながら業務を行っています。しかし、当事者の木曾律子さんの「移室に際し、説明が不足していたことにより不安の増強から観察室へ逆戻りした」というエピソードが報告され、「果たして私たちは本当の意味での個性性を重視した看護を行っているのだろうか。業務を効率的に実施することに比重が偏っているのではないだろうか」など、いま一度立ち止まって考える機会となりました。

これからも、時代を見据えたテーマを追求していきます。来年、愛知県でお会いしましょう！

ナビゲーター 内野隆幸 日精看 教育認定委員



Finish!

一般演題B (交流セミナー・ワークショップ)



とにかくお得な企画！

私は、交流セミナー「地域包括ケアの時代、看護の強みを活かした退院支援」に参加しました。精神科認定看護師6名が集まって、「リエゾンチーム加算や認知症ケア加算などの診療報酬を算定するために、参加者と交流を深めたい！」と考えた企画。50名ほどの参加者の前で、地域連携室、外来、訪問看護ステーションの視点から情報提供後、グループに分かれて、それぞれがもつ現場の課題と工夫について話しあいながら交流を深めました。セミナーの後、企画者は「多職種連携のあり方など課題はいろいろあるけれども、それぞれの経験を共有し、交流できたことが何よりの収穫。参加者の勇気づけ・力づけになれていたらうれしい」と話していました。

交流セミナーに参加すると、情報がもらえて、一緒に考えることができ、ディスカッションができて、ファシリテーターの役割やグループの力動も学べ、ネットワークづくりができるなど、とにかくお得なセミナーです！来年の学術集会で、お待ちしております。

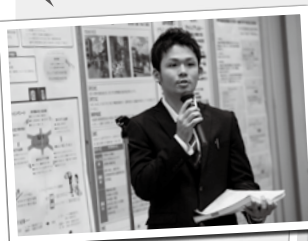
ナビゲーター 松永智香 日精看 教育認定委員



映画

毎年、話題の映画や、ケアのヒントになる映画を上映しています。今年は戦時下の困難な状況でたくましく生きる姿を描いた「この世界の片隅に」、当事者の日常を描いた「ありがとう1・2」が2日間、上映されました。

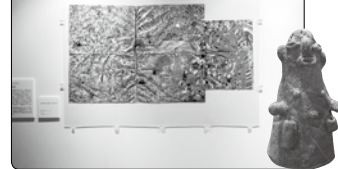
看護研究発表



学術集会で発表される「看護研究発表(推薦演題)」は、都道府県支部の看護研究発表会などを通じて、推薦されます。今年は口頭発表139題、示説発表110題が行われました。認知症ケア、行動制限最小化看護は演題数も多く、現場における問題意識の高さがうかがえました。

示説発表は、ポイントや図が目に入りやすいように工夫されたポスターが展示され、発表後も、参加者が発表者に質問をしている場面がたくさん見られました。

アール・ブリュット展 / アート写真展



3日間、当事者の内面を表現した作品が展示されました。ある参加者は「その人自身の表現を制限せずに見守ってきたい。現場に戻るのが楽しみです」と、会場を後に。今後看護者によって当事者の才能がたくさん発掘されていくことでしょう。

貴重限定みやげも！



2日目、なんと、末安会長の似顔絵がデザインされた“きびだんご”が限定350箱で発売され、あっという間に売り切れに！貴重なおみやげとなりました。

運営や企画を担いました—岡山県支部

学術集会では、岡山県支部の支部役員と実行委員が、運営と企画の一部を担いました。

支部企画では、ハンセン病の理解の乏しさや、それによる差別・偏見の実態が知られていない現実をふまえ、ハンセン病の歴史と看護について国立療養所長島愛生園(岡山県)の岡本悦子看護部長に講演をしていただきました。ハンセン病の診断と同時に、隠れるように船で上陸。消毒され治療棟に入棟し、外界からの遮断を余儀なくされた壮絶な歴史。不治の病と思われていたハンセン病と精神疾患に対する偏見が重なりました。同時に、家族との断絶や堕胎の強要など、ハンセン氏病の方が受けた人権侵害の大きさに衝撃を受けました。また、愛生園の看護者が患者さんの尊厳を重んじ、質の高い看護・介護を提供するという理念をつなぎ、ハンセン病の正しい理解を得るために地域を巻き込んだ活動を行ったそうです。

支部役員で愛生園の資料館も訪れましたが、支部企画を通じてハンセン病の歴史の重さを感じました。

藤原 薫 岡山県支部長



岡山グルメ情報

岡山グルメは数あれど、岡山県民で知らない人はいないスイーツはこれ！「大手まんぢゅう」！(写真左) 薄皮の中には餡がぎっしり。岡山県民の Soul Food ならぬ Soul Sweets！

そして、手軽に食せて超うまい一品が「ぶっかけうどん」だ(写真右)！お隣、香川県の讃岐うどんはもちろんうまいが、岡山のぶっかけうどんも負けてない！冷たいものから温かいものまで、お好みのトッピングで、自分流のうどんに仕上げる！手軽で、うまくて、あと味がいいグルメが、岡山で堪能できます。



大手まんぢゅう



ふるいちぶっかけうどん